

事業評価シート

番号 1040013 _ 001

【1.基本情報】

事業名	生活習慣改善プログラム推進～やろまいか！！今日から変える生活習慣～				
担当部名	健康部	担当課名	南市民健康センター		
未来地図政策	活動の源になる健康づくりの推進		政策コード	2 - 1 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成19年度～	年度	根拠法令 関連計画※	健康増進法	

【2.事業概要】

事業の目的	健康寿命の延伸、65歳未満の死亡者の減少、生活の質の向上、生活習慣病者の減少、医療費の軽減のため、市民が循環器病や糖尿病等を発症させる生活習慣やその予防法を知ることにより、生活習慣病の発症や重症化を予防する。特に、減塩や野菜摂取量を増やす等の食生活改善が動脈硬化の予防に繋がることを理解し、食生活の改善に取り組めるよう啓発する。また、地域住民と協働で健康づくりについて考え、取り組むことにより、地域住民の主体的な健康づくり活動の活性化を図る。				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の健康課題を共有し、地域における生活習慣病予防の取り組みについて話し合う ・医師・歯科医師からの講演等 ・生活習慣病予防のための食事、運動に関する情報提供 ・地域住民が主体的に取り組む健康づくり自主グループ等のPR 				
事業の対象	何を	市民に分かりやすく生活習慣病に関する知識の普及及び生活習慣改善に繋がるよう食生活及び運動習慣の改善について啓発する。			
	誰に (対象者・対象者数)	市民			
	どのくらい (具体的数値で)	地域会議 33回 講演会 25回			
令和元年度 (実施内容)	地域住民と健康課題を共有する地域会議、生活習慣病に関する医師、歯科医師による講演、健康運動指導士による指導、SATシステムによる食事バランスの見直し等を実施				

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	0		0		0	
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	0	0	0	0	0	0

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		947	979	1,182
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	報償費	551	485	387
	旅費	136	125	125
	郵送料	154	199	88
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		947	979	1,182

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	947	979	1,182

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	947	979	1,182

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	市民	市民	市民
受益者数	1,717	1,477	1,438
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	552	663	822

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	講演会の参加者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	1,525	1,717	1,477
実績値	1,717	1,477	1,438

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	講演会をきっかけに健診を受けようと思った人	単位	%
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	44.7	39.6	37.6
実績値	39.6	37.6	36.5

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	①循環器病や糖尿病等を発症させる生活習慣やその予防法を知ることにより、生活習慣病の発症や重症化を予防するきっかけとして必要な事業である。 ②健康増進法第4条に基づき、市として積極的に市民の健康増進のための事業を行う必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	①生活習慣病の発症、重症化の予防、生活習慣改善の啓発について、市民に周知する手段として、10年以上実施しているが、65歳以上の参加者の割合が高い。目的を達成するための効果的な方法が他にないか、PDCAに基づき検討する余地はある。 ②地域住民と健康課題を共有し、健康づくり活動を協働で実施し、地域で主体的に取り組む「健康づくり自主グループ」を支援できるのは市が担うものである。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	この事業をきっかけに住民が主体的に生活習慣の改善に向けた取り組みを始めた地域もあり、事業に一定の効果がみられる。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	市内のほぼ全域で事業を実施しており、公平性は保たれている。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	生活習慣病予防等の啓発内容や方法についての検討、改善が必要であるが、市民の健康増進を図るために必要な事業であり、事業を継続する。

事業評価シート

番号 1040013 _ 002

【1.基本情報】

事業名	元気健康シンポジウム				
担当部名	健康部	担当課名	南市民健康センター		
未来地図政策	活動の源になる健康づくりの推進		政策コード	2 - 1 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	17 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	介護保険法 岐阜市高齢者福祉計画	

【2.事業概要】

事業の目的	地域での介護予防に向けた健康づくり活動の活性化と個人と地域の健康に対する意識の高揚を図る。	
事業の内容	地域で活動するシンポジストによる健康づくり活動についての事例発表、有識者による介護予防に関する講演会	
事業の対象	何を	元気健康シンポジウム
	誰に (対象者・対象者数)	高齢者を中心とした市民
	どのくらい (具体的 数値で)	年1回
令和元年度 (実施内容)	・地域住民による健康シンポジウム(いきいきサロン、いきいき筋トレサポーター、ウォーキング、食生活改善推進協議会) ・健康講話	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	25,043	790	25,043	790	26,860	790
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	25,043	790	25,043	790	26,860	790

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	消耗品	328	212	51
	印刷製本費	168	159	168
	報償費	180	180	180
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		827	701	553

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	25,870	25,744	27,413

【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金	206	179	110
県支出金	103	88	69
市債			
使用料・手数料			
その他	413	347	304
計(F)	722	614	483

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	25,148	25,130	26,930

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	市民	市民	市民
受益者数	355	408	310
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	70,839	61,593	86,871

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	参加者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	500	500	500
実績値	355	408	310

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	地域の健康自主グループ数	単位	組
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	380	380	380
実績値	378	409	409

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	中	高齢者が増加する中、高齢者が住み慣れた地域でできる限り生涯にわたり、心身ともに健康で生き生きと暮らしていくことができるよう、介護予防に取り組む必要がある。 介護予防に向けた健康づくりに取り組む市民が活動状況について事例を発表することで、活動が活性化し、他の活動への波及効果が期待でき、地域ぐるみでの健康づくりにつながる。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	参加者は有識者が提供する最新の健康情報を得ることができ、市民の介護予防、健康づくりに活かすことができるが、会場に収容出来る人員に限られる。 シンポジウムでは、地域で活動する健康自主グループが活動状況を発表する場であり、健康自主グループを支援できるのは、市だけである。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	低	シンポジウムでの発表や参加により、個人と地域での健康づくり活動の必要性を確認する機会となっている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	市内全域を対象とした事業であり、公平性は保たれている。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)-廃止)	改善 (統合・縮小含む。)	健康自主グループ数は増加し、活動も継続されている。今後は、広報誌等において健康づくり活動の情報提供を実施し、健康自主グループの活動活性化、地域ぐるみでの健康づくりを推進する。